

保護者2004年10月

### 大きく変わる受験システム

去る9月20日新宿にて行われた中学、高校受験のセミナーにアイネックのスタッフが参加してきました。日本の受験は大きく変化しています。

現在日本では少子化が叫ばれていますが中学受験の受験率は非常に高いものになっています。その理由として2002年度から公立高校で新学習指導要領が実施されたことによる学力低下への懸念が高まったことがあり未だにその影響が続いているものと思われます。そういったことから近年中学校の受験率が高くなっています。中学受験では親御さんの協力が大切だということを非常に感じました。普段からお子さんが勉強に集中できる環境づくりをしてあげてください。また、一回一回の模試の結果に一喜一憂しないで下さい。もちろん結果は大切です。しかしもっと大切なことは結果をふまえて次はどうするか、ということです。出来たところはほめてあげて次もまた出来るように、できなかった所はなぜできなかったのか、どうすれば出来るようになるかということを話し合ってください。そういうことをすることで子供の实力はどんどん伸びていくものなのです。中学受験はお子さんも小さく精神的な要素が大きいと言えます。親御さんはどっしり構えて安心感を与えてあげてください。

高校受験では近年大きな変化がありました。特に都立高校の入試は非常に厳しく推薦入試の倍率は3.26倍で合格率は30%と約3人に1人しか合格できない状況になっています。一般入試の受験倍率は1.33倍となっています。このように都立高校の入試が厳しくなった理由として次のことをあげることができます。

#### 学区制撤廃

都立高校の普通科では学区外からの合格者数に制限がありましたが、15年度からは学区制度自体がなくなり受験生はどの都立高校にも何の制限もなく受験することが可能となっています。

#### 絶対評価の導入

都立高校で選抜資料となる調査書の評定(内申点)は集団に準拠した評価(相対評価)でしたが15年度より目標に準拠した評価(絶対評価)に改められ、人数制限がなくなりました。

#### 推薦で観点別評価を活用

推薦選抜では中学校在学中の学習成績や意欲、適正などをよりきめ細かく評価するために、各教科の評定(5・4・3・2・1)ではなく観点別学習状況の評価(A・B・C)が今春から活用されるようになりました。各教科4～5合計37観点すべてが点数化されますがその中でも特に重視する観点が各校で定められており、それぞれの配点や満点は学校によって異なります。

#### 自校作成問題実施校の増加

16年度入試では10校が国語・数学・英語を独自に作成した問題を入試に使いました。一般入試に比べて出題レベルが高く、記述式の解答も多いため高い思考力・表現力が求められます。来春は新たに2校の導入が予定されています。

この中で3番目の相対評価から絶対評価に変わったことは大きな反響をよびました。内申のつけ方は各学校によって違ってくるので受験生の学力が判断出来にくいことになります。これが4番目の入試問題の自校作成につながったと思われます。

東京のこのような動きは他の道府県にも影響を与えています。「学区制撤廃・絶対評価の導入・推薦で観点別評価を活用・時効作成問題の実施はすでに始めている県も多くなっています。各都道府県の詳しい情報については塾内生担当のアドバイザーにお問い合わせ下さい。外部の方でお知りになりたい方は、目次の『お問い合わせ・資料請求・連絡先』よりご連絡下さい。